

彦名通信

No. 163

平成22年12月

ロボコンM科チーム中国地区大会優勝!!



ロボットコンテスト



デザインコンペティション



プログラミングコンテスト

CONTENTS

目次

イベント特集

高専デザインコンペティション	2・3
高専ロボットコンテスト	4
高専プログラミングコンテスト	5
高専祭	6・7

クラス便り

2年学年主任より	8
2年機械工学科・電気情報工学科	8
2年電子制御工学科・物質工学科・建築学科	9
3年学年主任より	10
3年機械工学科・電気情報工学科	10
3年電子制御工学科・物質工学科・建築学科	11

クラブ便り

活動報告	12
------	----

研究活動

研究紹介	13
------	----

寮生会便り

寮行事紹介	14
-------	----

トピックス

トピックス	14・15・16
編集後記	16

速報 全国高等専門学校デザインコンペティション2010 in 八戸 米子高専建築学科 4年連続文部科学大臣賞を受賞! 環境部門:文部科学大臣賞(最優秀賞)／構造部門:優秀賞

■環境デザインコンペティション

最優秀賞 (文部科学大臣賞)

「ANAGRAM ～オモイデノコウカン～」
角奈津子 (1S)

= 本選出場 =

- ◎「人の動きで成り立つマチづくり」
西川彰裕、萩原由也、仲間佑介 (5A)
- ◎「赤い“怪”“戒”伝説
～絶滅危惧種が説く伝説による
人々の意識改革～」
村上翔吾、藤原裕章、砂場雄一郎、田渕彩 (5A)

■構造デザインコンペティション

優秀賞

「SAP5」
海道真一、谷川和也、専田誠 (以上 5A)、
藤原玲生 (4A)、浦木博之 (3A)

7位

- ◎「匠」
川戸孝太、須山あゆみ、矢芝真帆、辻法規
(以上 5A)、
多城茉莉奈、山崎基弘、飯塚大地
(以上 4A)

■空間デザインコンペティション

= 本選出場 =

- ◎「おりたたみハウス」
堀菜奈恵 (4A)
- ◎「うなぎたちの寝床
(町屋リノベーションによる次世代型集住)」
宮野弘詩、香川恵理子 (5A)
- ◎「Fastener Living」
田邊明子、桑本円 (5A)

11月13日・14日にかけて、青森県八戸市で行われた全国高専デザコン2010 in 八戸において、米子高専は環境部門で最優秀賞（文部科学大臣賞）、構造部門で優秀賞を獲得しました。文部科学大臣賞は デザコン2007 in 周南より4年連続で獲得しました。

今回のデザコンはメインテーマを『もったいない』として「本来あるべき状態にないこと。それをふさわしい状態に変える・・・」そんな『もったいない』ライフスタイルの実現に向けた提案をテーマとして開催され、八戸市公会堂での本選には「環境部門」「構造部門」「空間部門」の3部門に建築学科3年生から建築学専攻1年生までの計25名の学生が参加しました。環境部門は「エコKnowledgeを未来へ」をテーマに、先人たちのエコにまつわる知恵（エコKnowledge）を再発見し、現在そして未来の環境を維持・保全するためにどのように役立てたらよいかアイデアを提案するものでした。予選エントリー作品数の16校59作品の中から、17作品（内 米子高専が4作品（1作品辞退））が本選でプレゼンテーション審査を行い、建築学専攻1年生 角奈津子の作品が最優秀賞に決まりました。構造部門は「どこでもブリッジ」をテーマに、緊急災害時や橋を必要とする世界の地域において、いつでもどこでも簡単に持ち運びができ、現地で簡単に組立ができる仮設の橋のアイデアを提案し、かつ、木材を使って模型を制作し、耐荷性能・組み立て機構、デザイン性等を競うものでした。全国の高専から32校52作品がエントリーし、米子高専からは2チームが参加し



ました。5年生の海道真一らを中心に3・4年生も含めた混成チーム「SAP5」が、トップと並ぶ240kgを载荷しましたが、総合評価で惜しくも2位の優秀賞を受賞しました。空間部門は「未来の世界のエコ型リビング」をテーマに、10年、20年後に実現するかもしれない未来のライフスタイルを自由な発想でイメージし提案をするというものでした。予選エントリー作品数の20校99作品の中から、14作品（内 米子高専が3作品）が本選でプレゼンテーション審査を行いました。残念ながら入賞には至りませんでしたが、審査員の記憶にはしっかりと残る作品が提案できたと確信しています。

参加学生は日々遅くまで本選の準備を行い、今回は会場が青森県八戸市と大変遠方であったため、疲れ等による心配もありましたが、学生たちはその心配をよそに、素晴らしい活躍を見せてくれました。後述の受賞学生の想いにも書かれていますが、入賞をすることはとても名誉ある事ではありますが、何よりも自らが作り上げた提案を伝えきることと目標を達成することへの意識の高さを第一に持っているのが本校の学生の特徴かもしれません。その意識の高さが、毎年の結果に反映されているのでしょうか。惜しくも受賞は逃しましたが、競技を戦いきった学生の顔はとても晴れやかでたくましく思います。悔いを残してしまった学生にとっても、この経験を通して大きく成長をしたと思います。また今後に向けてよい経験と結果が残せた、とても貴重な経験だったのではないのでしょうか。学生たちの更なる活躍に期待です！



環境デザインコンペティション

S1 角 奈津子（文部科学大臣賞）

はじめに、まさかこのような賞を頂くことができるとは思いませんでしたので大変驚いています。デザコンを通して、自分の生活や住んでいるまちについて、もう一度、問い直すことができました。このような機会を得ることができたことを、何より嬉しく思います。また、当初より「分かりにくい」と言われてきた案だったので、審査員の方々に考えをきちんと伝えることができたことは、大変良い経験となりました。最後に、本番直前まで提案の問題点やプレゼン方法など、多くのご指摘をくださった先生方、本当にありがとうございました。先生方のご指導が無ければこの賞を頂くこともなかったと思います。この場を借りまして、心よりお礼申し上げます。



構造デザインコンペティション

5A 海道 真一（優秀賞）

今回のデザコンに向けての活動と本選を振り返ると「悔しい」という一言が浮かんでしまいます。今年は構造部門4連覇がかかり、周りの方々の期待も大きかったように思います。その中で、精一杯の努力をし、私なりの最高傑作を作り上げ、自信を持って本選に向かったのです。そこで「悔しい」というのは、力を出し切っても及ばなかった自分の未熟さを痛感したからです。しかし、表彰式が終わった後の後輩の一言は「来年こそは最優秀賞を獲りましょう！！」というもので、今回の最大の収穫は、メンバーと一緒に活動してきた後輩たちの意識を変えられたことにあります。チームメンバーには終始無理を強いてしまったにもかかわらず、ついてきてくれたことに本当に感謝しています。そのメンバーに賞を獲らせてあげられなかった悔しさを忘れずに、これからも努力を重ね、今後の活動で成果をあげたいと思います。



高専ロボットコンテスト2010中国地区大会 M科チーム優勝!

競技課題	激走・ロボ力車	
中国地区大会	平成22年10月31日(日) 松江総合体育館	
ロボット名	V@y@6 バヤシックス	高専前派出所 コウセンマエハシツシヨ
参加学生	5M 太田 拓巳	5D 山脇 怜
	5M 西林 郁弥	4D 影山 大介
	4M 篠原 篤広	4D 佐々木健太郎
	4M 中川 拓実	4D 田中 佑治
	4M 前原 誠一	4D 三好 諒
	3M 桑本 彰文	3D 長尾 武志
	3M 對馬 伸幸	2D 安田 聖弥
	3M 西尾 一希	
	3M 平田 浩平	
	3M 松尾 英嵩	
	3M 西田 拓真	
	2M 宮本 翔太	
	1M 桑原 健	
	1M 青戸 伊織	
	1M 池淵 智史	
	1M 石賀 博志	
	1M 角 聖哉	
	1M 村岡 健太	
	1M 山内 健司	
	1E 平賀 克己	
結 果	優 勝	特別賞(マブチモーター)

高専ロボコン2010中国地区大会報告

機械工学科 矢壁 正樹

10月31日に松江総合体育館にて行われたアイデア対決全国工業高等専門学校ロボットコンテスト中国地区大会に本校機械工学科チーム(米子Aチーム)が8年ぶり5回目(機械工学科チームとしては4回目)の地区大会優勝を成し遂げました。電子制御工学科チーム(米子Bチーム)は一回戦を勝利し、二回戦で敗れましたが、特別賞(マブチモーター特別賞)を受賞することができました。本年のテーマは「激走・ロボ力車」で、2足歩行ロボットが人を乗せた台車を人力車のように移動させ、ゴールまでの速さを競うものです。ゴールまでには台車と2足歩行ロボットの「連結」、ゴールする権限を得るための「鍵の挿入」といった課題が待ち構えており、2足歩行ロボットの歩行速度の速さばかりではなく、これらの課題をスムーズにこなせるかどうか勝敗の分かれ目となりました。チームごとの詳細については、それぞれのチームリーダーの記事に任せますが、GW前の4月末からロボットの構想・設計・製作・試走と休む間もなく、夏休み返上で頑張った努力が報われたのだと思います。地区大会が行われるようになってから今年で20回目ですが、優勝回数については、地区大会優勝回数の最も多かった徳山高専(5回)に並び、米子高専の優勝回数は同数1位となりました。

いつも応援してくださっている後援会・同窓会のみなさま、振興協力会の方々、本校教職員へ御礼を申し上げるとともに、全国大会に出場する機械工学科チームの御健闘を祈りたいと思います。みなさま、ありがとうございます。そして、頑張れ、技術者のたまご達。

努力が実りロボコン中国地区大会優勝

5M 太田 拓巳

去る10月31日に島根県松江市にある松江総合体育館でアイデア対決全国工業高等専門学校ロボットコンテストの中国地区大会に参加しました。我が機械工学科ロボコンチームは部員20人の努力が実り、本校八年ぶりの優勝をすることが出来ました。1試合目は松江高専Bチームとの対戦を40秒で勝利し、その後も安定して40秒台前半のタイムで勝ち上がりました。大会トップのタイムを出していたチームがミスで敗退したことも重なり、決勝戦の相手はタイム的には我がチームの方が速かったので焦らず確実に操縦し、勝利することが出来ました。全国大会では僅差で勝敗が分かれると思うので、焦らず確実に勝ち進んでいきたいと思えます。応援よろしくをお願いします。



中国大会までを振り返って

4D 田中 佑治

私たち電子制御工学科は新メンバー1人を加え合計7人で参加しました。去年のノウハウを活かし二足歩行ロボットと回路を仕上げていたのですが大会直前での仕様変更により競技中に回路が発火するということもあり目標であった時間内でのゴールが出来ず2回戦敗退となり非常に悔しい思いをしました。しかし特別賞でマブチモーター賞を頂くことができチーム一同非常に満足しています。

今年はM科ロボコンチームが優勝し、優勝チームを1年間間近で見ることができ非常に良い経験となりました。

最後になりましたがこの結果が出せたのは本校の教職員の方々、応援して頂いた保護者の皆様のおかげです。この場をお借りして御礼を申し上げます。



全国高専第21回プログラミングコンテスト

第21回プロコンを終えて

指導教員 電子制御工学科 河野清尊(自由部門)
電気情報工学科 松本正己(競技部門)

全国高専第21回プログラミングコンテスト本選が10月16日(土)と17日(日)の両日、高知県高知市の「高知市文化プラザかるぽーと」を会場に行なわれました。大会は6月末の書類審査による予選を通過した課題部門20作品、自由部門20作品および競技部門59チームによって競われました。また、課題部門と競技部門には、ハノイ国家大学(ベトナム)、大連東軟信息学院(中国)、モンゴル科学技術大学からの参加があり、高専からの参加チームも含めたNAPROCK第2回国際プログラミングコンテストとしても開催されました。

米子高専からは、課題部門と自由部門に各2作品および競技部門に1作品の応募を行い、6年連続のフルエントリーを達成することができました。そのうち、自由部門の1作品と競技部門の1作品が予選を通過して本選に出場しました。第21回高知大会は、「龍馬伝」で賑わう活気あふれる土佐の地で行われた大会で、高知高専の教職員・学生のみなさんのおもてなしの心に満ちた暖かい大会でした。本選の結果を別表に、出場した学生の感想を以下にまとめました。

自由部門に出場した電子制御工学科チームは、救急現場で救命救急士の支援を行う、iPadとiPhoneを組み合わせたシステムの実現に取り組みました。その着眼点、現場との連携、そして有用性が認められ「特別賞」を受賞することができました。一昨年の最優秀賞・文部科学大臣賞、昨年の特別賞に続き、3年連続で入賞できたことを喜んでます。

競技部門に出場した電気情報工学科チームは、昨年2年生で自由部門の本選に臨んだメンバーが中心でした。昨年の経験を生かして競技に臨みましたが、残念ながら結果に結びつきませんでした。しかし、今年もまた貴重な経験を積むことができました。参加した学生達は、今後、スキルアップを重ね、来年の第22回大会(一関高専主管、一関市開催)に再度チャレンジしてくれると思います。

齊藤校長先生をはじめ応援してくださった教職員のみなさん、本当にありがとうございました。また、毎年、製作費の援助をいただいている米子高専振興協力会の会員企業のみなさんにもこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後ともみなさんのプロコンへのご理解とご支援を宜しくお願いします。

(第21回高知大会の結果・模様はプロコン公式サイトに掲載されていますのでご覧ください。

<http://www.procon.gr.jp/>)

部 門	自由部門	競技部門
作 品 名	救急Res:Q —携帯端末を用いた音声反応式記録システム—	TMT —貯めて撒いて治水する!?—
参加学生	5D秋山晴彦、5D左久間一幸 2D柴田泰樹、2D鷺見知洋、2D舟越大	3E木村勇太、3E成相雅樹、 3E清水一貴
結 果	特 別 賞	1回戦敗退 敗者復活戦敗退

プロコンを終えて

5D 左久間 一幸, 秋山 晴彦

私たちは卒業研究の一環としてプロコンに参加しました。2年生を含めたメンバーの中には初めてプロコンに出場する者もありましたが、5年生の私たちにとっては最後のプロコンとなりました。

今回、私たちが作成したシステムは「救急Res:Q—携帯端末を用いた音声反応式記録システム—」というもので、救急現場で患者搬送記録票を作成する救急救命士の方を支援することを目的として開発しました。救急現場での難しい問題を題材として取り扱ったので様々な問題とぶつかりましたが、メンバー全員で協力しあってそれを乗り越えました。その甲斐あってか「特別賞」を受賞することができました。

作品の開発にあたって、貴重なアドバイスをいただき、物品を貸与して下さった西部消防局の方々をはじめ、ご指導いただいた先生方、今回のプロコンの関係者の方々にこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。



【競技部門】

「水瓶の恵み」に参加して

3E 木村 勇太

今回のプログラミングコンテストは私にとって2回目の参加となりました。私が参加した競技部門は、他の2部門(自由部門、課題部門)とは違い、あらかじめ定められたルールの下、プログラムの完成度の高さを競うというものです。

プログラムの開発では、ほとんど初めて触れるプログラミング言語(C#)や、慣れないネットワークとの連携プログラミングであったため非常に苦労しましたが、試合数日前にはなんとか思い通りの動作をするプログラムが完成しました。大会では残念ながら負けてしまいましたが、今回の反省を生かし、来年、一関で行われる大会に向けて今からプログラミング技術を磨きたいと思います。



第47回 高専祭「10XX CHILDREN」

高専祭実行委員長 4E 来海 亮

10月30日、31日の2日間今年も高専祭が開催されました。この2日間は高専生にとってとても大きなイベントだと思います。

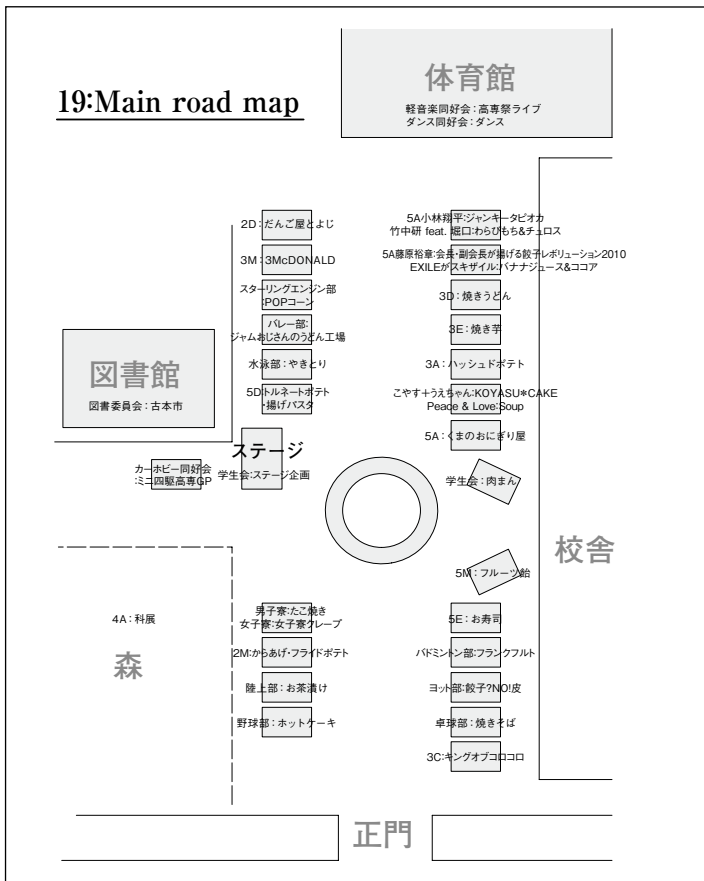
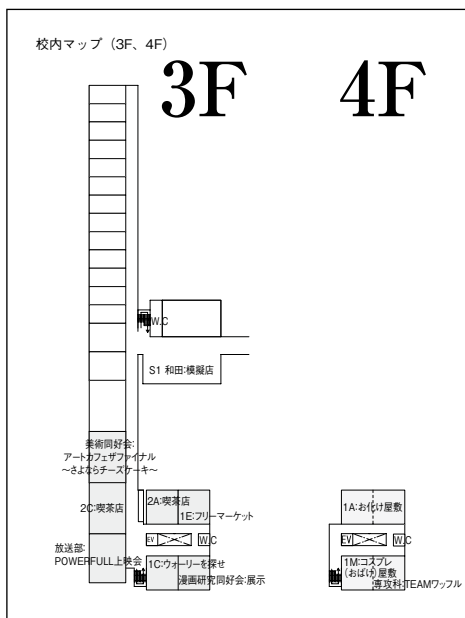
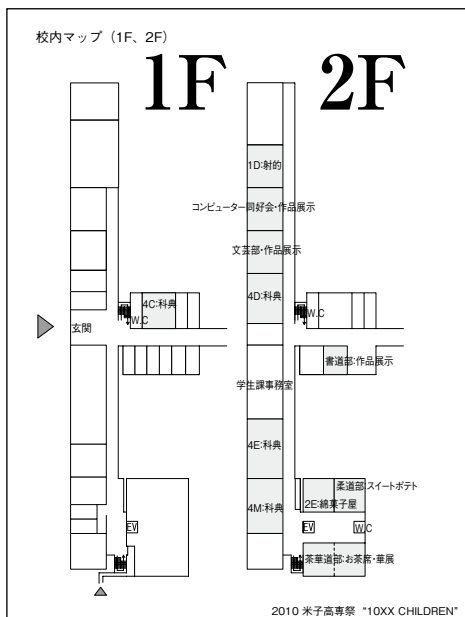
今年のテーマは「10XX CHILDREN」です。一人ひとりが童心に返って高専祭を楽しんでもらいたい。そのような意味が込められています。このテーマに沿って当日を楽しむため、学生会員や各企画の代表者は3ヶ月前から準備を行ってきました。

高専祭3日前は台風が近づいており中止も懸念されていた中、いくつかの教室で“てるてる坊主”が目にとまりました。これは高専祭を少しでも楽しみたい、良いものにしたい、という表れだと思います。そんな学生の思いで開催された高専祭。2日とも天候には恵まれたとは言えませんが、学生会員や各企画の代表者の協力により大きな問題もなく終えることができました。

開催期間中、ステージ企画、模擬店、ライブ会場など様々な場所で学生や地域の方々の笑顔を見るたびに、僕もたとえどんな大変な時であっても笑顔になりました。

この高専祭を通してクラス内の仲、地域の方々との交流、これからの高専がより良い方向に向かったらと思います。

高専祭を開催するにあたり携わったすべての方々にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



ロータリーからの眺め



学生会本部



書道部



茶華道部

科展



4M



4E



4D



4C



4A

機械工学科1年文化祭企画「コスプレ屋敷」

1M 小別所 星地

今回、僕たち1Mは「コスプレ屋敷」をしました。1Mは他のクラスよりも準備を始めるのが遅く、おまけに人の集まりも悪くて、本番に間に合うか心配でした。

でも、終盤にかけてクラスの人が集まりだして、なんとか作ることが出来ました。当日は、予想以上に人が来て、忙しすぎて困ったくらいです。

内容は、記念撮影だけの、正直なところ、自分たちでも意味の分からない企画だったと思うけど、この様な取材を受けたり、たくさんの人に来ていただいたりしてとても驚いています。

ぼったりり疑惑もあったらしいけど、来た人が楽しめたと思うので、良かったと思います。



初めての高专祭

1C 大江 ひかる

私達1Cのクラス企画は「ウォーリーを探せ」をしました。1Cは男女の関わりがあまりないクラスでしたが、準備を進めていくにつれて協力し合い、完成させることができました。準備の最初の段階ではみんなすることがわからず、全く準備が進みませんでした。しかし、高专祭が近づくにつれて1人1人が自分のできることを探し、急ピッチで作業を進めることができました。そんな中、何度か意見が食い違い反発しあうことがありましたが、反発しあうことによってコミュニケーションがとれていったのではないかと思います。また、それによって良い企画にもなったのだと思います。

当日は小さい子供から大人まで沢山の方が来られて、楽しんで帰って行かれたと思います。そして私達も、初めての高专祭を楽しむことができ、本当に満足しました。クラスとの関わりも増え、とても良い企画になったと思いました。



ステージ企画



吹奏楽部



カーホビー同好会



模型展示



1D



2A



5D



軽音ライブ

クラス便り

2 年



学年主任 一般科目
布 施 圭 司

2年生の5クラス約200名は、10月21日（木）から20日（金）にかけて、石見銀山および三瓶青少年交流の家で校外研修を行いました。2日間とも天候に恵まれ充実した研修となりました。世界遺産に登録された石見銀山では、現地ガイドに案内され、銀が採掘された間歩（坑道）や歴史的な町並みを見学しました。工作機械がない時代に手作業で少しずつ坑道を掘り進めたことが、学生たちには特に印象深かったようです。世界中に輸出された銀を採掘した人たちが、関連する商工業をおこし、町をつくった人たちに思いをはせ、歴史の流れや文化の営みについて考えることができました。三瓶青少年交流の家では、宿泊研修およびハイキング、サイクリング、野外炊飯といった課外活動を行いました。公共の宿泊施設で不便なこともあったようですが、クラスメートとの時間を楽しく過ごしていたようです。すばらしい自然の中での共同生活や協同作業によって、普段とは異なるクラスメートの一面を発見し、集団生活に関して学ぶことができたのではないのでしょうか。1泊2日という短い研修でしたが、よい思い出ができ、クラスのつながりが一層深まったようです。

■在籍学生数

() 女子の内数

2M	2E	2D	2C	2A	計
38(0)	40(3)	44(6)	41(15)	34(16)	197(40)

機械工学科



校外研修に参加して

辻野 格

三瓶山で自分たち2年機械工学科の学生はとて有意義な時間を過ごしました。三瓶山の美しい自然に囲まれた散歩道のハイキングや、池本先生に指導をいただきながらパターゴルフを楽しみました。みんなで一つのことを行うことは、クラスの親睦を深めるとても良いことだと思いました。ハイキングの途中で立ち寄った博物館では三瓶山の歴史や山の

自然、動物について学ぶことが出来ました。翌日の石見銀山の発掘場所もとても興味深く、楽しかったです。今回自然の中でたくさんのことが学びました。この経験を生かして有意義な学生生活を送りたいと思います。

校外研修に参加して

福光健太郎

僕たち2年生は10月21・22日に三瓶山に校外研修に行きました。世界遺産の三瓶山に行くということでもみんなテンションがあがっていました。自分自身もすごく楽しみでした。実際の石見銀山に行くと見ると思ったよりも迫力があって山の中にある発掘の穴も本当に人が掘っていたのかと疑ってしまうくらいでした。さすが世界遺産だなんて感動しました。

今回の校外研修はとにかく楽しかったということしか思い出に残らないくらい楽しいことしかありませんでした。もう一回何処かに校外研修に行きたいです。

電気情報工学科



校外研修旅行を通じて

岸本 勇輝

ぼくは今回の研修旅行で様々な事を学びました。石見銀山では日本の歴史に触れることができました。実際に銀を掘っていた間歩、当時使われていた消火栓、町並みなどを見ました。その時代石見銀山がどのような感じだったかを思い浮かべることで、知識を深めると同時に楽しむことができました。三瓶青少年交流の家では、ハイキングを通じて三瓶の自然

に触れて心も体もリフレッシュし、野外炊飯では仲間と協力することで、おいしい昼食を食べることができました。クラスの仲間と長時間過ごすことで友情を深めあうことができたので、仲間と理解しあえるとても良い機会となりました。この研修旅行で学んだことを今後の学生生活に生かしていきたいです。

高専祭を終えて

前田 果澄

今年の高専祭で、2Eの企画は教室で「わたがし」でした。食品を扱うのは初なのですが、その食品と呼べるものが、わたがしの材料であるざらめだけだったので、管理に関しては割合楽なほうなのだと思います。しかし、そのざらめを頼むのが遅れてしまい、前日の夕方に届くなど、少々ひやひやすることもありました。また、高専祭当日は、高専大会とかぶっているためクラスの人数が少なく、店番がめちゃくちゃになってしまったなど、反省点が多々ありました。その分、クラスで協力することが出来ました。そして、一つのことをやり遂げることが出来、とても充実した高専祭になりました。来年は今年の反省を教訓とし、より充実したものになりたいと思います。

電子制御工学科



文化祭

亀井千佳良

去年に続いて、今年も実行委員をしました。2年から飲食系をやっても良いということだったので、だんご屋をすることにしました。夏休みがずれたので、休み明けから1ヶ月で高専祭というハード・スケジュールでしたが、実行委員2人とその他手伝ってくれた数人の人達のおかげで、なんとか当日までこぎつけられました。初日は最初いろいろと問題が出てきて、開店を

1時間遅らせたりして、ぐだぐだしましたが、2日目は前日の反省を生かしてスムーズに作れました。うれしいことに2日分のだんご粉が1日でなくなり、2日目は買い出しに走った1日でした。クラスでも、暇さえあれば手伝いに来てくれた人がたくさんいて、助かりました。買ってくれた人と手伝ってくれた人達に感謝します。

油断は禁物!?

濱田三奈美

今回の研修旅行で一番思い出に残ったのは、サイクリングです。1周16kmで、女子は8kmでしたが、あまりの楽しさと体力がまだ残っているということで、女子も1周することになりました。ところが、最初の4kmとは比べものにならないほどの急激なアップダウンが続き、あれほど高かったテンションも下がってゆき…。確かに風景は最高で天気もほどよく良かったのですが、体力が厳しい。あと4km!とゴールが近付いたところで、さらなる登り坂の登場。自転車を降りて歩いたり、先の様子を見に行って後ろの人達に伝えたりと協力しながら…女子は誰一人リタイアすることなくゴール!でもヘトヘトでした。油断大敵…。

物質工学科



校外研修について

高田 拳

校外研修1日目、僕たちは石見銀山に行きました。その中でも間歩に入ったのが印象的でした。間歩は銀を掘り出す所で、とても涼しい場所でした。銀を掘り出す場所と聞いていたので、いたる所に機械があるようなイメージだったのですが、意外と自然が多い所でとても気持ちの良い場所だという印象を受けました。青年の家では、クラスで急に肝試しをやろうという事に

なりました。やはり肝試しは、行く前はけっこう盛り上がりますが、行ってからはいそいそと盛り上がる感じはしませんでした。ただ、皆の絆が深まった良い研修になったと自分は思いました。

高専祭について

田中みなほ

校外研修に行く前から高専祭のために準備をしていましたが、はじめの方は4、5人しかいなくてとても大変でした。何日か前になると、ほとんどのみんなが協力してくれて、男の子も女の子も仲よくなってすごくうれしかったです。今年はマフィンを売ることにしたので、みんなも忙しい中、夜頑張って作ってくれました。私もねむい中作りました。みんなで頑張ったかいがあり、土曜はすぐ完売、日曜もたくさん作ったけれど、残ることなく完売しました。ステージに上がって頑張った人たちを応援するため、クラスのみんなでライブに行ったり、メッセージを送ったりして、すごく心が暖かくなりました。今年も雨だったけどいい高専祭になったと思います。

建築学科



校外研修旅行

岡田 和也

今回の研修旅行で石見銀山の町並みから建築を学んだり、クラスのつながりが一層深まりました。初日の石見銀山は古い建物が並び、とても落ち着いた雰囲気でした。町並みを壊さないため、自動販売機や電気メーターに木の板を貼付けたり、電柱を地面の中に埋めたり、景観と町の雰囲気が大切にされていました。また窓の柵によって、家の外からは見えないが中からは

見えるといった昔の工夫を間近で見られて良かったです。その後の三瓶山では、これまで話したことがなかった人と話ができて、キンボールやバーベキューを通じてさらに仲を深めることができました。来年の工場見学旅行もみんなと一緒にいきたいので、勉強も一層頑張っていきたいです。

高専祭

小泉友伽菜

私たちのクラスは、ハロウィン風の喫茶店をしました。本格的に準備を始めたのは1週間前だったのでとても忙しく、遅くまで残って内装を作り、土曜日に集まって試食をしたり器やフォークなどを買い出しにきました。当日は沢山のお客さんが入ってくれて、忙しかったのですが充実し楽しかったです。私たちが作ったのはカボチャプリン、ミニパイ、サンドイッチ、フレンチトーストだったのですが、「カボチャプリン美味しかった」という声が聞こえたときはすごく嬉しい気持ちになりました。購入した食材は終わる頃にはすっかり無くなっていて、頑張ったかいがありました。来年はクラス全員がさらに団結できるものにしたいです。

3 年



学年主任 一般科目
竹内 彰 継

3年生は10月20日（水）から22（金）に2泊3日の日程で工場見学旅行に行ってきました。見学先は、京阪神の本校卒業生の大口受け入れ先企業が中心です。そのため、卒業生達が出て来て解説する場面も数多くあり、学生達は非常に関心を持って聞いていました。

実は、今年度から夏休みが8、9月となったため、休み明けから見学旅行までの時間が短く、学生達のモチベーションを十分高められるか心配でした。しかし、学生達は我々の予想をはるかに超えて真剣に見学しており、見学終了後の質疑応答時間でも予定時間を超過するくらい多数の質問をしていました。

現在、就職活動を始める時間がどんどん早まっています。本校でも4年でインターンシップ、5年で就職という流れを用意していますが、学生達には今回の貴重な体験を活かし、高専での残り半分の時間を有意義に使ってほしいと思います。

■在籍学生数

() 女子の内数 【 】 留学生の数

3M	3E	3D	3C	3A	計
40(3)【1】	49(2)	40	43(18)【2】	47(19)	219(42)【3】

機械工学科



日本を支える産業

田原功一郎

今回の工場見学旅行で一番楽しみな見学先は三菱自動車でした。実際に見学してみると、一番興味深かったのがロボットアームの動きでした。すごく複雑に動く関節できちんと組み込まれていくパーツを見て驚きを隠せませんでした。今回の工場見学旅行で、どこも大企業といわれているだけに、工場の規模が想像以上の大きさに圧倒されました。よく「日本を支える

産業」というフレーズを耳にしますが、実際にはどのようなものなのか具体的には分からなかったけれども、今回の工場見学旅行でJFEスチール（株）西日本製鉄所、三菱自動車（株）水島製作所、三菱重工（株）高砂製作所、三菱重工（株）神戸造船所を見学させていただいて、「日本を支える産業」が全部ではないが少し分かったと思う。

工場見学旅行に参加して

福本 千等

三菱重工高砂製作所は、見学するまではあまり興味の無かった工場でしたが、僕たちの日常生活を支えているのはここで作られているタービンなんだと思うと興味深くなりました。実際にタービンの構造や製造過程は見学して多くのことを知ることができたし、いろいろ考えることができたので良かった。見学した工場はどれも新鮮な驚きがありました。どこの工場も製品の徹底した品質管理などはすごかったし、技術者として学ぶことも多かったです。普段ではできない見学や実際に目で見て知ることなど、教室ではできない価値ある時間をすごせてとても良かったです。

電気情報工学科



工場見学旅行に参加して

仲田 幹

今回の工場見学旅行で学んだことは、すべての工場で常に製品の改良に努め、妥協を許さない品質を求めているということでした。その理由は、取り扱う商品が高価で数量が多い場合、一度、問題を起こすとお客様の信頼を失い、同時に大きな損害を被ることになるからです。また、どの会社も長期的な到達目標を持ち、日夜、努力されていたことが印象に残っています。私達も

常に目標を持ち、より充実した学生生活を送ることが大切であると感じました。このように今回の工場見学旅行は、社会人としての巣立ちの前に、良い刺激になったように思います。これからもモチベーションを高めながら、より充実した学生生活を送りたいと思いました。

工場見学旅行に参加して

松本 凌

私たちが見学させていただいた会社は、業界では一流と言われる企業で、いずれも独自の技術を持ち、それらを利用して生産に取り組み、それらが日本の電機産業を引っ張っていると感じました。一方、私たちの豊かな生活を裏から支えている火力発電所も見学し、自然との調和が図られている姿を見ることができました。さらにすべての会社が世界に目を向け、海外進出を図ると同時に環境問題に取り組んでいることに驚きました。激動の世紀に生きる私たちは、今こそ、限りある資源を有効活用し、環境に配慮した技術開発を模索していくべきであると思いました。今回の工場見学旅行では、その先駆けとなる工場を見学し、将来の進路設計に生かせる良い経験となりました。

電子制御工学科



古野電気を見学して

廣池 颯人

私たちは最終日に古野電気を見学させて頂きました。古野電気では、多種目少量の生産に対応するために「ひとり屋台生産方式」を採用していました。

せっかく見学させて頂いたのですが、正直、技術面のことには全くわかりませんでした。しかし、仕事をしている方々の仕事に対する真剣さに、心を動かされました。また、玄関先に鉄板を置いて静電気を取り除き機

械が壊れるのを事前に防いだり、部品の管理では物によって温度や湿度まで管理しているものもあったりと、企業というもののすごさを感じました。個人とレベルが違うのは当然なのですが、普段の生活ではまず見ることのできないものがたくさんあり、大変良い経験をさせて頂いたと思っています。

関西リサイクルシステムズを見学して

田中 勝也
渡邊 尚之

自分は今までリサイクルは大事なことだとは分かっていましたが、具体的なリサイクルの工程のことまで考えたことはありませんでした。しかし今回の見学で、リサイクルの為に実際にたくさんの人が知恵を出し合い仕事をしていることを理解することができました。

実際の作業では、いろいろな工程があり、それぞれに多くの作業員がいました。安全面への配慮と、流れ作業が止まることなくスムーズに流れていた事が、とても印象に残りました。一人一人の意識の高さでそれが実現するのだと感じ、またそれが「仕事」なんだと強く感じました。自分が働くようになってから、このような高い意識で仕事ができるのかと、考えさせられました。

二日目はサントリーの京都ビール工場でした。三つの工場の中で、サントリーの工場が一番良いと思いました。工場の中できちんと見学ルートが用意されて、ビールの生産工程の説明も凄く分かりやすかったし、その上、廃棄物の処理設備も三つの工場の中で最も良く、全くゴミを出さないと言う事に驚きました。この事は是非インドネシアの工場にも応用して欲しいと思いました。

最後に東レに行きました。東レは液晶パネルを始め、様々な物を生産していました。最も関心を持ったのはDNA解析プレートでした。工場の後、私達は東レリサーチセンターに行きました。日本一と言われている解析センターだけあって、先端技術の解析機械が沢山ありました。

日本人との旅行は凄く厳しくて、楽しくないかもしれないと心配していましたが、実際はその逆でした。

先生方やクラスメイト達はとても優しいから、楽しい工場見学になりました。その上、沢山の知識も身に付く事も出来たので凄く良い見学旅行でした。

物質工学科



工場見学の感想

クリス

私は物質工学科3年の皆さんと一緒に京都や大阪へ工場見学に行きました。

一日目、大阪ガスを見学しました。大阪ガスの工場は大阪湾にあります。工場はとても広くて、先端設備もたくさんありました。一番驚いたのは、タンクの周辺にある事故対策の設備でした。様々な場合の対策が設置されて、大変素晴らしい事だと思いました。

と改めて実感しました。この旅行で、まだまだ建築の分野について知らないことが多いことを知り、自分の将来もすぐそこまで迫っていることに気付かされました。これから二年半、この気持ちを忘れずに、真面目に建築に取り組んでいきたいと思います。

建設現場を見学して

村山 雄介

京都府立医科大学病院の建設現場を見学しました。まず工事概要を聞き、病院の図面を見せてもらいましたが、改めて大変な仕事だと思いました。実際に現場見学では、見たこともないような機械や完成してからでは見えない天井裏などを見せてもらいました。驚いたことが、現場の中にゴミがなく、いろんな物がきちんと整頓してあったことです。多い時には300人もいう現場であれだけ綺麗にするのは大変だと思うけど、安全に仕事するには、必要なことなんだと思いました。今までは現場の仕事にあまり興味がなかったけど、現場での仕事もかっこいいと思って興味も湧いてきました。今回はとても良い経験になり勉強になりました。

建築学科



見学旅行を通して

原田 小鈴

この二年半、建築について日常的に学習してきましたが、本物の建築現場や有名な建物を目の前にして学習することは人生で初めてのことで、とても勉強になりましたし、今まで勉強してきた建築のことなのにとても新鮮な気持ちになりました。自分の今勉強していることは将来、人の命を守り、人々の安全を保障する、とても大切な分野なんだな

吹奏楽部 秋の行事を終えて

吹奏楽部顧問 山田 祐司

●松江高専の文化祭に出演

10月9日（土）に松江高専の文化祭に向向き、松江高専吹奏楽部との合同演奏を行いました。松江高専吹奏楽部が3曲、米子高専吹奏楽部が1曲演奏し、その後、両校の合同演奏で4曲を演奏しました。部員数の少ない本校の部員にとって総勢60人ほどとなった合同演奏は大変刺激になったと思います。

●吾亦紅祭りでの演奏

10月17日（日）に近隣の知的障害者授産施設の吾亦紅で行われた祭りに参加し、演奏を行いました。ゲゲゲの鬼太郎など4曲を演奏し、100人ほどの聴衆には楽しんでいただけたと思います。演奏の後は、祭りに参加してゲームを行ったりし、最後のテント片づけにも参加しました。（写真は吾亦紅での演奏の風景）

●弓ヶ浜小学校音楽の夕べで演奏

11月13日（土）に弓ヶ浜小学校で行われた音楽の夕べに参加し、トトロの曲などの演奏を行いました。今年は、弓ヶ浜中学校吹奏楽部との合同演奏も行い300人ほどの聴衆に楽しんでいただきました。



ヨット部 国民体育大会に参加して…

3C 平岡 拓洋

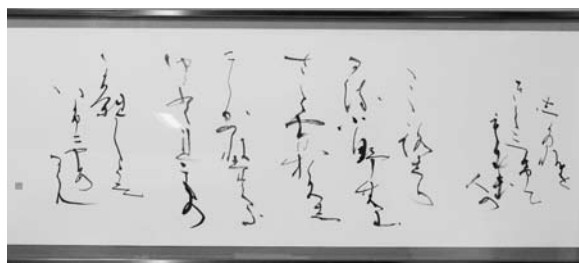
9月末に千葉で「第65回国民体育大会・ゆめ半島千葉国体2010」という大会に僕たち米子高専ヨット部は鳥取県代表選手として出場しました。僕たちにとってはこの大会が1年間での最終目標として掲げながら日々強化合宿や県外への遠征など、ハードな練習をこなしてきました。大会では、3年生は今年が最後の少年少女での競技参加なので、悔いの残らないヨットレースをしようと、一生懸命海上で戦いました。総合成績で良い結果は残せなかったですが、一つ一つのレースの中では他県に負けにくいくらい素晴らしい走りができたと思います。



書道部 受賞の歓び ～第15回全日本高校・大学生書道展「大賞」受賞～

2C 増田 萌

本格的に書道を始めて約1年で、全日本高校・大学生書道展という大きな大会で賞を頂けるとは思ってもいなかったので、私も三島（同優秀賞・2C三島瑠美）も驚きと嬉しさでいっぱいです。このような賞を頂けたのも、いつも高専まで来て指導して下さいの中澤秀月先生のおかげです。言葉では言い表せないくらい感謝しています。そして、これからも先生方や先輩方の期待に応えられるように取り組んでいきます。



（写真の翻字：「しかのねをきくにつけてもすむ人のこゝろしらるる小野の山さと・やまおろししかのねたくふゆふくれにものかなしとはいふにやあるらん（西行『山家集』より）

科学部 天文ガイド読者の天体写真コンテストに入選

1C 加川 庸一

「天文ガイド」とは天文愛好家向けの月刊誌です。私たち科学部はその「読者の天体写真コンテスト」で今年3回入選しました。

1つ目は「フレア・カーネルでの下降流」という名の作品で、これは科学部一年生にとって初めての作品でした。しかも、IDLといった解析プログラムを初めて使用して作成しました。2つ目は「逆エバースェッド流」です。これは撮影時にいろいろなハプニングがあり、奇跡的に撮影できた作品でした。3つ目は「アンブラルフラッシュ」で、これは黒点内部の点がチカチカ点滅する面白い現象をとらえた作品でした。

天文ガイドに入選するのは非常に難しく落選した作品もありました。しかし、それにめげず今後もバンバン投稿していきたい、いつか最優秀賞をとりたいと思います。



研究紹介

建築学科 藤木 竜也 研究室

藤木研究室では、工学分野では珍しい“歴史”、つまり“建築史”を専門としています。建物を“つくる”ためにある建築学科の中では、唯一“見る”ことを主眼とする異色の分野です。

主な研究活動は2つ。1つは古文書などの文献資料や実際に現存する歴史的な建物を通じて、バールに包まれる歴史の謎に迫り、それを紐解くこと。

古くはピラミッドに法隆寺（世界最古の木造建築）、広くはアジアにヨーロッパ…そんな“建築史”の世界の中で、特に明治、大正、昭和戦前期の日本の住まいに“近代化（＝洋風化）”の波がどのように影響を与え、住まいの変容がもたらされていったのか、そしてその中で江戸時代までに培われてきた伝統の“和”がどのように守られ、継承されていったのか、その実態の解明に強い関心を抱き、主なテーマとして研究活動を行っています。

もう1つは、文化財の保護・活用のためのフィールドワークです。これまでも、瀟洒な洋館が山間ののどかな風景に残る旧千原医院（島根県奥出雲町、写真上）やかつての“町長さんの家”で豪壮な和風邸宅が残る矢田貝家住宅（伯耆町、写真下）などの調査を行い、また、先頃存続の方針が発表された米子市公会堂にも文化財保護の立場から関わっています。

これは、価値ある歴史遺産を後世に伝え、維持保存するために、その建物の有する歴史的な価値を整理するもので、それには、建物を実際に計測して図面を描く実測調査や文献、古写真などを用いて、歴史的な知見を踏まえながら、評価書や報告書を作成するなどを行っています。こうした成果を通じて、文化財保護、すなわち文化の継承のための一助を担っています。

これからも研究活動を通じて、米子を中心とした山陰地方の文化に貢献すべく、さらなる研鑽を重ねていきたいと思っています。



研究紹介

一般科目 竹内 彰継 研究室

筆者は山陰地方唯一の天文学者です。本業はスーパーコンピュータを用いた電磁流体数値シミュレーションで太陽表面におけるジェット現象などの動的現象を解明することです。しかし、最近数値シミュレーションだけでは満足できず、観測機材の整備も進めています。

まず、平成17～19年度の科研費で「太陽彩層速度場観測望遠鏡」を製作しました。（その英語名Solar Chromospheric Velocity Field Imagerを略してChiVI（チビ）という愛称をつけました。図1）チビを構成する3本の望遠鏡にはそれぞれH α 線（水素の吸収線）の中心（H α ± 0.0Å）、青側ウイング（H α - 0.5Å）、赤側ウイング（H α + 0.5Å）の光のみを透過させるフィルタがついており、これら3枚の画像からH α 線のドップラーシフト（つまり視線速度）の2次元分布図が得られるようになっています（図2）。図3はチビを用いて求めた太陽の自転の角速度分布図で、極より赤道の角速度の方が速い「差動回転」が捉えられています。チビを用いるとこのような複雑な画像も比較的容易に得られます。

また、本年度天体用小型分光器DSS-7を購入しました（図4）。この分光器は小型ながら波長解像度が高く（図5）、さらに使い勝手が良いため宇宙膨張の検出などに利用できます。

今後はこれらの機材を用いて、学生達とともに観測的研究を進めて行き、山陰地方から情報発信していきたいと考えています。



図1 米子高専に設置された太陽彩層速度場観測望遠鏡「チビ」

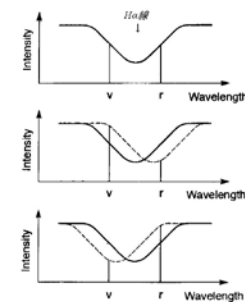


図2 チビでH α 線のドップラーシフトを求める原理

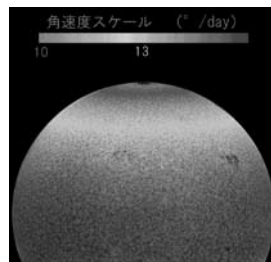


図3 チビを用いて求めた太陽の自転の角速度分布図



図4 望遠鏡に取り付けた小型分光器DSS-7

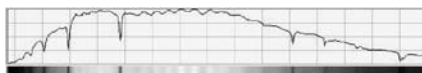


図5 DSS-7で観測したこと座の α 星（ベガ）のスペクトル

高専祭バザーについて

3A 村上 大昂

僕たち男子寮は、例年通りバザー企画のたこ焼きを行いました。僕は、1年生のときからたこ焼きを焼いてきましたが、今回からは焼く作業を行う側ではなく、事前準備と当日の管理を行う企画責任者となり、責任が重くなるとともに、たこ焼きに対する思い入れも強くなりました。

一ヶ月ほど前から準備をしてきましたが、今回最も心配していたことは台風の上陸です。台風で高専祭が中止になるとこれまでの準備が無駄になってしまうので、「何てついてないだろうなあ」とため息をついていましたが、当日は何とか台風もそれ、それほど風も強くなく、高専祭が開催できる天候となってくれたことは本当に良かったと思います。きっと僕たち寮生の日頃の行いが良かったのでしょう。

途中、材料が切れてしまい、買出しに行かなくてはならなくなったりもしましたが、どうにか最後まで売り切り、昨年より多少多く売れたことをうれしく思います。

皆さんご協力本当にありがとうございました。



吾亦紅祭りに参加して

1C 山崎由希子

10月17日に吾亦紅祭りがありました。吾亦紅という場所は、「障がい」のある方々が働いておられる施設です。私はボランティアとして、そのお祭りの手伝いに行きました。そこで、ペアになった方と一緒に商品を売ったり、いろんなコーナーをまわったり、ご飯を食べたりしました。お店で商品を売る時は、ペアの方に負けないように大きな声を出して売り込みました。カラオケコーナー、ゲームコーナー、スイーツコーナーなど盛りだくさんでとても楽しかったです。最後のお別れの時、「帰らないで!」と言っているかのように、手をずっと握ってくれて、嬉しかったです。「障がい」と聞くだけで、偏見を持つ人もいるかもしれませんが、今回の交流で私たちと同じように元気で生き生きした方々と触れあえて、とても良い経験になったと思います。



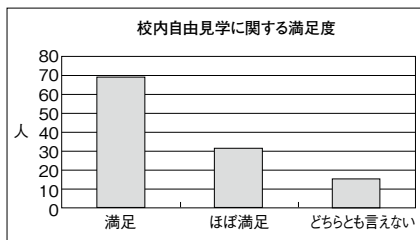
トピックス

第2回オープンキャンパス 盛況でした

教務主事補 山田 祐司

11月13日(土)に第2回オープンキャンパスを開催し約140名の中学生およびその保護者に参加していただきました。参加中学生の内、約6割は夏の第1回に続く2回目の参加でした。午前はず学校、学科の概要説明の後、在校生の生の声を聞いてもらいました。その後、数学と理科の模擬授業(入試問題の解説も含む)、校内自由見学を行いました。午後は各学科の体験授業、希望者による寮見学でした。

各催しとも大変好評でした。例として校内自由見学に対する満足度のグラフを示します。



回答のどちらとも言えない理由の多くは“もっと時間が欲しかった”でした。

午前の部の催しに対してアンケートに寄せられた主なコメントを示します。

学校、学科概要説明に対して:

- ・分かりやすく高専に入りたいと強く思いました。
- ・とてもすごいことをしていると思いました。
- ・学科でいいものがありすぎるし選びにくいほどおもしろそうに感じました。

在校生の声に対して:

- ・実際の在校生の意見が聞けて参考になった。
- ・先輩たちの高専を選んだ理由を聞けてよかった。

・みんな楽しそうに学校生活を送っていることが分かった。

一般科目模擬授業に対して:

- ・先生方のキャラが面白かったです。もちろん授業も分かりやすかったです。
- ・習っていない事をして勉強になったし、難しい問題の解き方が少しは分かってよかった。
- ・とても分かりやすくおもしろかった。

校内自由見学に対して:

- ・前回はどこに行けばいいか迷っていて今回も不安でしたが、学生の方が案内してくださり、前回より充実していました。
- ・在校生の方がやさしく接して下さってうれしかったです。
- ・電気のとこにいた先輩が優しいし、おもしろくて高専っていいなーって思いました。



ダブル優勝おめでとう！

一般科目 酒井 康宏

去る11月6日（土）、徳山高専主管で『第26回中国地区高専英語弁論大会』が開催され、本校からは、暗唱の部に2C長谷川さんと2E小倉君が、スピーチの部に2D寺西さんと1E平賀君が出場しました。大会当日は、それぞれの個性が十分発揮され、長谷川さんと平賀君が優勝、小倉君が準優勝、寺西さんは4位入賞という2部門で優勝するという一大快挙を成し遂げました。暗唱の部に出場した2名とも、素晴らしい内容が十分伝えられ、聴衆の涙を誘いました。反対に、平賀君のスピーチは、ジェスチャーを交えた内容のスピーチで聴衆を笑いの渦へと巻き込みました。寺西さんは、4位に終わりましたが、出場者中最も発音が良かったと思います。なお、平賀君は、中国地区代表として、来年の1月に全国大会に出場します。限らない声援をよろしくお願いいたします。



高専学会で優秀賞3件受賞

2S 寺本 絵里子

8月28日に日本高専学会第16回年会講演会が長岡技術科学大学にて行なわれ、その中のポスターセッションにおいて2S寺本絵里子、5C清水章皓、4C清水香穂の3名が、それぞれ優秀賞を受賞しました。発表の内容は、物質工学科の谷藤研究室およびB&C（Biology & Chemistry）研究同好会において実施している新規機能性材料の開発に関連した研究成果をまとめたものです。

これまででも度々学会に参加してきましたが、賞を頂けたのは初めてのことで、さらに参加した学生全員が受賞できるとは思っていませんでした。この学会に参加するにあたり、実験のみでなくどのように説明したら相手に伝わるかを考えた発表練習等、準備を重ねた甲斐がありました。今後、私が外部で研究成果を発表する機会は限られてきますが、下級生には様々な発表の場で活躍してほしいと願っています。

最後になりましたが、実験および発表準備の際に指導して頂いた先生と研究室学生みなさんに厚く御礼申し上げます。



高校化学グランドコンテストに参加して

3C 遠藤 里恵

私達は米のとぎ汁を使った水質浄化に5月から取り組みました。他の班に比べて、私達は実験をはじめるのが少し遅く、そのため夏休みや放課後を使って実験をおこないました。しかし、実験のデータはあまりよいものではなく、1次審査のために提出するレポートは班員全員で協力し考察を考えました。そのため、1次審査を通過したときはとてもうれしかったです。発表用資料や原稿の作成では時間が少なく、土曜日や日曜日でも夜まで準備をおこないました。

原稿を覚えたつもりでしたが、発表本番では緊張して所々忘れてしまいました。発表が終わると、他校の学生・生徒や大学の先生からいろいろな質問を頂き、とても勉強になりました。今後は質問して頂いたことを解決できるように実験に取り組んでいきたいです。



水難救助で西部消防局から表彰されました

3C 中尾あかり、米澤 恵

7月22日（木）の午後4時半頃米川に沿って帰宅する途中、高齢者の男性の方が米川に転落して流されているのをみつけました。驚いて助けを求めたところ、たまたま近くにおられた方が来てくださり、協力して救助することができました。

その時は必死で、あまり記憶に残っていないのですが、転落した方が助かって本当によかったと思いました。このたびそのことで西部消防局から表彰されましたので、それを報告いたします。



初代IECトーマス・エジソン賞を受賞して

電気工学科 第5期生（昭和47年度卒）
 [現 日本電機工業会（パナソニックより出向中）]
 佐々木 宏

2010年10月11日の国際電気標準会議（IEC）の規格管理ボード（SMB）にて、2010年IECトーマス・エジソン賞を頂きました。今年から始まったこの賞には、6名の技術委員会オフィサーが選ばれました。（国際議長、国際幹事、対象約370名）ひとりずつSMB国際議長から受賞理由の概要を読み上げられ、賞状とメダルが授与された後に簡単なスピーチを披露しました。私が話した内容は以下のとおりです。

Thank you very much. This is the most honorable moment in my whole life. I am proud of this, because I am only one Asian person. This will, I believe, encourage other Asian countries to contribute more and more to IEC. Thank you very much.

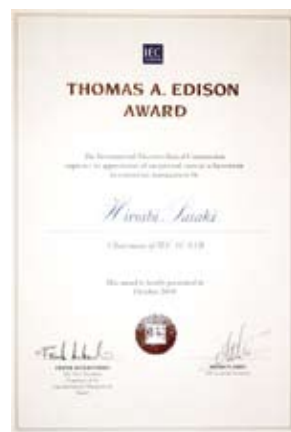
私の人生の中で最も輝かしい瞬間であると同時に、アジアからは私ひとりが選ばれましたので、これを誇りに思います。この受賞を通じて、今後、他のアジア各国がIECに対してもっともっと貢献していくことになると思っています。

スピーチでは、感極まって声がうまく出せなかったのですが、なんとか喋ることができました。

さて、私は現在までに電子レンジ安全国際議長（SC61B）を12年間務めております。議長としての任期は当初6年でしたが、3年の延長を3回獲得しており、2012年まで計15年の任期を務める予定です。そもそも、私が電子レンジ安全国際議長になったのは、1997年のトロンドハイム会議（ノルウェー）における出来事がきっかけでした。親委員会（TC61）におけるオープンレンジ安全規格案に対し、私ひとりで10人を相手取ってディベートを行い、廃案にしたのです。高専時代に、早くからESSで英語のディベートを経験していたおかげでした。

「努力（辛抱）していれば誰かが必ず見ている」と父が言っていたことを思い出します。5月に逝った天国で息子の自慢をしていることでしょう。

最後になりましたが、大変名誉な賞を頂けたことは皆様方のご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



中国語・韓国語の導入について

一般科目 中島 美智子

現在、米子高専では英語の他に第2外国語としてドイツ語の授業を行っています。しかし、鳥取県においても中国や韓国と姉妹都市提携が結ばれているように今後、中国や韓国との交流はますます盛んになると思われます。このような状況の下で、国際理解教育の一環として、来年度より中国語と韓国語の授業を導入する運びとなりました。当面は、全学科5年生を対象に開設している外国語選択に中国語と韓国語を加える予定です。学生たちがアジア諸国にも、ますます関心を持ち今後、技術者として活躍してくれることを期待しているとこです。

編集後記

機械工学科ロボコンチームが中国地区大会で優勝しました。また、デザコンでも建築学科チームが環境部門で最優秀賞を受賞するなど優秀な成績を収めました。これからも学生たちの生き生きした姿をお伝えしていきます。

紙面へのご意見・ご感想を、メール（hikona@yonago-k.ac.jp）にてぜひお寄せください。

※記事中において、学科名をアルファベットで表している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、
 G…一般科目、S…専攻科 例えば、「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報委員会

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5023 FAX: 0859-24-5029 印刷：株式会社高下印刷
 E-mail: hikona@yonago-k.ac.jp ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/ ⇒メニューより「キャンパスライフ」